

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校定時制の課程は昭和 23 年の設置以来、「明るく生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な社会の有為な形成者の育成」を不易の教育目標としています。

「確かな学力」「豊かな人間性と規範意識」を身に付けた生徒の育成、「生徒支援と安全安心な学校づくり」をめざして、生徒一人ひとりを大切に、「入ってよかった」と言われるような学校をめざしています。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成 (学習活動の充実)

個々の生徒に応じた確かな学力の育成と授業改善の取組み

- ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、基礎学力の育成など、確かな学力を身に付けさせる。(授業理解度 100%が目標)
- イ ICTを活用した授業や主体的協同的な学びをめざした授業に取り組むなど、授業の質的改善を図る。
- ウ 校内の公開研究授業や研修を通じて、個々の授業力をさらに向上させる。
- エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業などをできる限り推進する。
- オ 図書館の活用を奨励し、読書活動の推進を図り、教養豊かな生徒を育成する。(図書館の利用者数を 1.2 倍に増加させる。)

## 2 豊かな人間性と規範意識を身に付けた生徒の育成

規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む

- ア 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の確立を指導し、規範意識の醸成に努める。(平常の授業時の生徒出席率を 80%以上になるよう努める。)
- イ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)を育成し、良好な人間関係づくりを指導する。
- ウ 全学年でキャリア教育や進路指導を充実させ、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を 100%になるように努める。
- エ 特別活動や行事の充実を図ることで生徒の参加意欲を高め、学校への帰属意識や仲間・友達づくりの場を広げる。
- オ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。
- カ 18 歳選挙権を見据え、社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

## 3 生徒支援と安全安心な学校づくり

生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

- ア 健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒の健康増進と安全確保を推進する。
- イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。
- ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- エ 高校生活支援カードの活用など、教育相談と配慮を要する生徒支援の充実に努める。
- オ 家庭、地域との連携を推進し、開かれた学校づくりに努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>☆学校教育自己診断アンケートについて、生徒用、保護者用、教職員用を実施した。</p> <p>(1) 学力の育成と授業改善について 生徒が授業に取り組めるよう、9割を超える教員が、教材の工夫を行っている。しかし、授業に対する肯定評価は保護者で6割程度、生徒で7割程度に留まっている。教職員でも到達度の低い生徒への指導では肯定は6割に留まる。</p> <p>(2) 生きる力の育成について 生徒の授業への出席・進路指導への理解・行事への取組みについては、7割が肯定的に取り組む。保護者では、キャリア教育で8割、部活動や行事では9割が評価している。教職員でもキャリア教育7割、部活動6割、行事8割が肯定する。</p> <p>(3) 安心して学べる学校作りについて 生徒では、相談できる・生徒指導に納得は7割あるが、人権教育については5割ほどしか高められていなかった。学校に行くのが楽しい生徒は6割程度しかなく、保護者の8割と大きく分かれている。ただし、落ち着いた学べる環境だと考えている保護者は5割強に留まる。</p> <p>☆まとめ 不登校経験の生徒が入学する割合が増え、従来と異なった指導が求められている。学習習慣がついていない生徒への指導、学び直しへの対応を行っているが、それを指導する教員の育成体制は、教職員の7割の肯定に留まり、多様化する生徒への対応体制完成を、外部の応援を得ながら急ぐ必要がある。</p> <p>☆現在の取組みと今後の対応について 各教職員の能力を高めるため、研修を計画的に行っている(教員の9割が肯定)。キャリア教育では外部機関との連携や活用を進め、さらに生き生きと学べる学校とするため、SCやSSWの導入と連携を強化し、チーム学校としての体制作りを努める。</p>	<p><b>第1回</b> (6/23) 授業見学を行った上で、今年度の学校経営計画の内容と重点事項などを説明した。 ○授業見学から一遅刻や欠席している生徒が目立つ。勉強を楽しくして出席率を上昇させる必要がある。そのためには、 ①わかりやすい授業への取組みを、さらに進める必要がある。 ②相談しやすい場(保健室)があると、生徒はそこに行く。 ③教員が生徒に声掛けを行うと、学校に居場所ができる。 ④一見して面白いと感じられるプリントを作成する。 ⑤求められている答えでなくても、間違いでなければ、「おしい」と声掛けをする。 ○挨拶、言葉遣い、時間を守る、この3つはどこに行っても通用するのでしっかり指導すべき。 ○学校経営計画について——学校の現状と取組について資料を用いて説明し、計画の了承を得た。</p> <p><b>第2回</b> (10/28) 授業アンケート(7月実施)、生徒用学校自己診断(10月)、教職員用学校教育自己診断(10月)、生徒生活実態アンケート(10月)の結果について説明を行った。引き続き、各分掌より現在の取組み状況について資料を示して説明した。 ○授業アンケート・生徒用学校自己診断から——去年と比べて両方とも数値が実感として下がっている。アンケート結果を分析し、後期に生かしてほしい。 ○中学校ではアクティブ・ラーニングを多くの学校が取り組んでいる。楽しいだけでは学力をつける授業は成り立たず、内容・方法を考える必要がある。</p> <p><b>第3回</b> (1/23) 授業アンケート(12月実施)、保護者用学校自己診断(11月実施)の結果を説明した。 ○授業アンケートについて——1回目よりも若干改善がみられるが、昨年度よりも評価が下がっているのだから授業改善が必要である。 ○就職未決定者が多いので、来年度はキャリア教育を充実させる取組みが必要である。 ○学校経営計画について——学校協議会において平成28年度・平成29年度の学校経営計画及び学校評価(案)が承認された。</p>

## 府立布施高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>個々の生徒に応じた確かな学力育成と授業改善の取組み</p> <p>ア 確かな学力の定着</p> <p>イ ICTの活用や授業改善による授業力の向上</p> <p>ウ 公開授業研究や・研修を通じた授業力向上</p> <p>エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業の継続</p> <p>オ 読書活動の推進</p>	<p>ア 生徒の学力に応じた学習内容を設定し、計画的に確かな学力を身に付けさせる。基礎学力の育成にゼロ時限を活用する。</p> <p>イ ICTなどを活用した授業、生徒の主体的協同的な学びを取り入れた授業を増やし、授業改善を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>ウ 経験の少ない教員を中心に、公開研究授業・校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。</p> <p>エ 少人数展開・TTのきめ細かな授業を継続し、理解しやすい授業づくりを推進する。</p> <p>オ 図書館の利用を奨励し、読書活動や調べ学習の推進を図る。</p>	<p>ア 基礎学力の定着が必要な生徒を受講させ、単位認定まで指導する。 H27 8人→H28 10人</p> <p>イ ICTを活用する教員数や授業数 教員数(構成比) H27 60%→H28 70%</p> <p>ウ 学期ごとに、授業力向上のための公開研究授業実施(年2回)</p> <p>エ 授業アンケートの活用 ・授業理解度 H27 77.4%→H28 85% ・知識・技能が身に付いた H27 75.6%→H28 80%</p> <p>オ オリエンテーションを通じて1年生全員の利用を図る。</p> <p>※学校協議会の意見提言 教育課程・授業の工夫・授業改善等の取組みについて肯定的評価を得る。</p>	<p>(1)ア 担任団の協力を受け、ゼロ時限の活用者が増え、基礎学力の育成に効果があった。ただし、単位修得まで継続して指導ができなかった。(△) H27 8人⇒H28 5名</p> <p>(1)イ 主体的共同的な学びの実践のため、年間を通じて研修を実施。若手を中心として、アクティブな授業展開を行う教員が増え、ICT機器の活用者が増えて、授業改善が進んだ。(◎) H27 60%⇒H28 72%</p> <p>(1)ウ 全教員が参加した相互授業観察による授業改善、アクティブ・ラーニングの活用にも努め、公開研究授業を活用して意欲的に取り組んだ。(◎) ※若手教師育成相互観察実施、公開2回実施</p> <p>(1)エ 授業アンケートを活用した授業改善に努めたが、生徒の支持は得られなかった。(△) 授業理解：H27 77.4%⇒H28 77.2% 知識技能：H27 75.6%⇒H28 68.2%</p> <p>(1)オ 働きかけは行えたが、生徒の利用は進まなかった。今後は、図書館を多様な用途に使用し、新たな指標の設定を行う。(△) ※利用者数は、昨年とほぼ同じ(10～15名/日)</p>
2 豊 か な 人 間 性 と 規 範 意 識 を 身 に 付 け た 生 徒 の 育 成	<p>規律ある学校生活を通して、豊かな心を育成し、将来を切り拓く生きる力を育む</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)の育成と人間関係づくり</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実</p> <p>エ 特別活動と行事の充実</p> <p>オ 部活動や生徒会活動の活性化(加入率の向上)</p> <p>カ 18歳選挙権を見据えた計画的な政治的教養の育成</p>	<p>ア 基本的な生活習慣の確立 欠席・遅刻・早退・欠課(中抜け)の防止、規範意識の醸成・授業規律の確立(携帯使用、飲食、私語)学習習慣の形成を図る。</p> <p>イ あらゆる場面で自信や達成感を持てる指導に心がけ、同時にコミュニケーション力の育成と他者との豊かな人間関係づくりを図る。特にHRなど特別活動を通じて育成を図る。</p> <p>ウ キャリア教育・進路指導の充実 進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図り、希望者の卒業時の進路決定率を高める。ハローワークや外部機関と連携を深め、計画的な進路指導を行う。</p> <p>エ 特別活動や諸行事について、前年度の総括等を基により一層充実を図り、学校生活の満足度を高める。</p> <p>オ 部活動や生徒会活動の活性化を図り、主体的な取組や自尊感情高揚の機会と生徒を育成する。</p> <p>カ 政治的教養の育成を計画的に実施する。</p>	<p>ア 中退、再履修(留年)、長欠を各々20%低減する(目標)(滞留学生を除く) 年間遅刻数(のべ人数) H27 9461→ H28 8000 中退(人) H27 30 → H28 25 再履修(留年)(人) H27 6 → H28 5 長欠(30日以上欠席)(人) H27 91 → H28 80 ※滞留学生(長欠者)の在籍確認</p> <p>ウ 相談件数や各学年向けガイダンス実施件数 就職希望者・進学希望者の進路決定率 目標：80%以上</p> <p>エ 学校教育自己診断 ・行事が工夫されている H27 69.0%→H28 目標 80%</p> <p>オ 部活動の活動状況検証 加入率 30%台(目標)</p> <p>カ 計画を作成し、地歴公民の授業内で、育成する。</p> <p>※学校協議会の意見提言 豊かな心を育成する取組みについて肯定的評価を得る。</p>	<p>(2)ア 生徒への働きかけを行い、年間遅刻数、中退者数、長欠者数の減少は行えたが、年間遅刻数・再履修者数は達成できなかった。(○) 年間遅刻：H27 9461 ⇒H28 8999 中退者数：H27 30 ⇒H28 21 再履修者：H27 6 ⇒H28 15 長欠者数：H27 91 ⇒H28 71</p> <p>(2)ウ 外部機関を活用し、1年生から働きかけを強化した。卒業する生徒の就職希望者数・進学希望者数とも変動はあったが、就職試験を受験した者は、ほぼ8割を決定できた。(○) 学校就職希望者 11名中10名決定 進学希望者 8名中6名決定 ※地元の企業団体の協力を得て、新規の求人・採用を進めている。今後も地元企業と交流し、協力を得てキャリア教育を推進し、生徒の勤労観を高めながら、就職希望者の採用決定を進める。</p> <p>(2)エ 行事の内容充実を努めたが、目標には届かなかった。(△) 行事工夫：H27 69.9%⇒H28 68.0%</p> <p>(2)オ 教職員の働きかけにより、部活動が活性化できた。目標を大きく上回った。(◎) 部活動加入率：H27 18.5%⇒H28 49.4%</p> <p>(2)カ 授業に絡めて、VTR等を活用し、計画的に育成を行えた。(○)</p>
3 生 徒 支 援 と 安 全 安 心 な 学 校 づ く り	<p>生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくりの取組み</p> <p>ア 健康安全教育の推進(生徒の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)</p> <p>エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実</p> <p>オ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>ア 健康安全教育の推進 薬物、性感染症、喫煙、防犯防災、虐待、交通安全等、重要課題について防災訓練や健康HR等を通じて啓発を図る。特に喫煙については、禁煙の指導を強める。</p> <p>イ 全教職員が一致団結した協力体制を構築し、問題事象の防止に努め、発生時には適切な組織的対応を図る。</p> <p>ウ 人権HRの充実を図り、生徒の人権意識を高める。教職員には校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</p> <p>エ 教育相談の充実と支援コーディネータを中心とした支援教育のための校内委員会活動を展開するとともに、高校生活支援カードの活用や、個別の教育支援計画の作成を行う。</p> <p>オ 家庭、地域と連携して、保護者会活動を活性化させる。中高連絡委員会を核にして中学校訪問などにより情報共有を行う。広報紙の定期的な発行配布やHPの充実による情報発信を行う。授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査を実施し、結果を学校運営に反映させる。</p>	<p>ア 生徒のHR出席率の向上 80%以上が目標</p> <p>イ 懲戒件数低減(目標) H27 2件→H28 2件</p> <p>・非常時には、准校長の指揮のもと、生活指導部長を中心とした組織的な指導体制で対応する</p> <p>ウ 学校教育自己診断 ・人権意識が高まる H27 63.8%→H28 目標 70%</p> <p>エ 学校教育自己診断 ・先生に気軽に相談できる H27 69.0%→H28 目標 80%</p> <p>オ 「布施定だより」の発行 生活実態調査の活用 ・学校へ行くのが楽しい H27 66.0%→H28 目標 80%</p> <p>※学校協議会の意見提言 教育活動全般について肯定的評価を得る。</p>	<p>(3)ア 担任団の働きかけにより、出席率は改善したが、年間を通しての出席率は63%であった。(△) ※HR等での安全教育等の取り組みを充実しているが、課題として生徒の参加率が増えていない。次年度に向け、担任との信頼関係を増した上で、参加を働きかける取り組みを充実させる。</p> <p>(3)イ 巡回指導は継続して行い、喫煙等の問題行動を未然に防いだ。H28 4件(△) ※後半は問題事象の発生が減少した。</p> <p>(3)ウ HRでの取り組みを行ったが、成果が十分にあげられなかった。(△) 人権意識：H27 63.8%⇒H28 52.6%</p> <p>(3)エ 改善は見られたが、目標には達しなかった。(△) 先生相談：H27 69.0%⇒H28 68.6%</p> <p>(3)オ 「布施定だより」による情報発信は定期的に行い、保護者への年間3回の郵便物発送や、HP更新・学校メールの発送などと連動して、保護者からの評価を得た。(◎)</p> <p>(3)オ 登校する生徒は増加したが、「楽しい」と感じる生徒は増やせられなかった。(△) 学校楽しい：H27 66.0%⇒H28 54.5%</p>